

## 平成25年度 学力向上センターのこれまでの成果と今後の展開

平成25年10月25日  
学校教育政策課

これまでの主な成果(H24 5月～H25 9月)		今後の主な予定(H25下半期)
<p>【H24】 企画運営委員会 ・高校生学力向上委員会 ・英語教育推進委員会 ・小中学生学力向上委員会 ・教育力向上委員会 (計20回実施)</p> <p>⇒</p> <p>【H25】 企画運営委員会 ・授業改善推進委員会 ・教員の資質向上会議 ・英語教育推進委員会 ・福井型18年教育推進会議 ・進学対策委員会 ・高校教育改革会議 (計23回実施)</p>		<p>○学力向上センターアドバイザー会議(11月12日 東京) ・学力向上センターにおける、今後の進学対策や英語教育などについて、専門的な助言を得る。</p>
<b>学力分析と授業改善、進学支援</b>	<p>○県学力調査(小5・中2 12月実施)の分析・活用 ・小5・中2対象の県学力調査の結果を反映した課題克服教材集(オリジナル)を配信(H24は年度内に100%活用)</p> <p>○全国学力・学習状況調査(小6・中3 4月実施)の分析・活用 ・小6・中3対象の全国調査後、独自に分析し改善事例を提示(5月)。小中の学習担当者(364名)が集まり、指導法を協議(9月)</p> <p>○「高校生の授業わかる度調査(全高校生 7月実施)」の分析・活用 ・高校生の授業わかる度が50%未満の授業が多い学校に対し、指導主事による指導を実施</p> <p>○中学校 英数習熟度別少人数指導(H24～) ・モデル校英数各7校、3年生2クラスを3クラスにして習熟度別授業実施。(下位層は基礎問題正答率が1年で15.8%上昇)</p> <p>○大学進学対策 ・「高校生受験応援サイト(H24～)」開設 (難関校等5大学、中堅5大学の良問解答例や学習アドバイス集に対するアクセス数2,891件)</p> <p>・私立大学入試説明会(8月)において、ベネッセ講師による講演を実施(高校3年生・保護者101名参加)</p> <p>・志望大学別個別講座(7～8月)を実施。(教員対象研修参加142名、生徒対象講座参加306名)</p>	<p>【学力分析と授業改善、進学対策】</p> <p>○第2回高校生授業わかる度調査の実施(11月) ・1回目との比較分析により次年度の学力向上策に反映</p> <p>○小5・中2対象の県学力調査実施、課題克服教材集の配信 ・年度内に課題を克服して進級</p> <p>○公開授業・授業研究会の実施 (10月以降60回実施)</p> <p>○高校生へのセミナーの実施 ・土曜チャレンジセミナー(1・2年)、冬期セミナー(3年)、春期セミナー(2年)</p>
	<p><b>具体的な学習支援</b></p> <p>【英語教育】</p> <p>○小4から外国語活動の導入(9月～) ・小4の全学級で導入。導入に際して、指導用DVD・指導マニュアルを作成し、小4全担任に対する指導者研修を実施</p> <p>○中3長文速読ワークシート配付(9月～) ・中学3年生に対し、高校レベルの長文読解シートを毎月配付</p> <p>○すべての高校で、オリジナル教材「福・イングリッシュ」を英語授業で活用 ・ALTとのチームティーチングで利用するなど、29校中17校が活用(他は2学期以降で活用予定)</p> <p>○英語ディベート大会開催(H24～) ・H24 6校 7チーム(50人)、H25 5校 9チーム(53人)参加、武生東高校全国25位(全64チーム、北陸3県では最上位)</p> <p>【理数教育】</p> <p>○理数グランプリの充実 ・数学に3人1組団体戦を導入(H24)、中学校に1・2年部門を新設(H25)。(H25参加 395チーム、1148名(H24の倍増))</p> <p>○高校数学における「鳥瞰図(系統図)」の作成・配布(10月) ・高校数学の全体像および単元や内容の関連を分かりやすくした鳥瞰図を、教員、1・2年生に配付</p> <p>【古典教育】</p> <p>○百人一首の音読を全小学校で推奨(100%実施)</p>	<p>【具体的な学習支援】</p> <p>○全中学校で「CAN-DOリスト」作成</p> <p>○ワールド・コミュニケーションパーティ(高校) ・様々な国籍のALTと異文化理解を深める英語コミュニケーション活動</p> <p>○イングリッシュ・タウン・ウォーキング(高校) ・オリジナル教材を応用するためALTが生徒と街中を歩きながら実践指導</p> <p>○「科学の甲子園Jr」出場者を集中ゼミ開催で支援</p>
<b>教員の資質向上</b>	<p>○中高連携事業(H24～) ・中学教員が高校の授業研究会に参加(H24:142名(13%))、高校教員が中学の授業研究会に参加(H24:80名(9%))</p> <p>・「中高授業接続ガイド」を作成し、5教科全中高教員に配付(H24末)、H25は重点ポイントを活用スケジュールに則って実践中</p> <p>○校内研修支援(H24～) ・「学校全体の教育力向上に関する指針」を校種別に全教員に配付(H24)、全学校参加で「教員の資質向上会議(12月)」実施</p> <p>・「若手教員授業力向上塾」を各高校に設置 授業名人DVD(7教科12科目)を活用して研究。(17校で122名を対象に91回の教科会等を実施)</p> <p>・「指導主事等研究協議会(5月、9月)」において、指導主事が授業の見方や効果的な学校訪問の方法等を協議</p>	<p>【今後の方向性】</p> <p>(1)ICT教育の推進 ・新しい授業スタイルの導入など、授業を変えるためのICT機器活用の検討 ・教員のICT活用能力向上のための研修の実施</p> <p>(2)外部指導者による直接指導の導入 ・福井にゆかりのある企業人等を迎え、子どもたちの夢や希望を創出する指導の仕組みを検討</p> <p>(3)教員の経験年数に応じた計画的な研修体系に見直し ・優れた授業を実践する力や、子どもを指導する力などを明確にして、力を培う研修等を検討</p>

幼児教育支援センター（H24年11月20日開設）のこれまでの成果と今後の展開

項 目	これまでの成果（H24年11月～H25年9月）	今後の予定（H25年度下半期）
<b>保育所と幼稚園 の連携強化</b>	① 幼児教育講座等の開催 ・保育士と幼稚園教諭等が、保育の基本や小学校の教育内容等について共に学び、自園の保育に反映 （幼児教育講座：16回開催、約300名参加 小学校1年生の教科書を学ぶ講座：16回開催、約400名参加）	① 新たな幼児教育講座等の開催 ・小学校との連携等のテーマを追加するほか、市町との合同開催を多く実施（16回開催予定） ・園に加えて小学校への巡回訪問を実施し、就学前健康診断の機会を利用して、年長児の保護者を対象に、子育て等についてのアドバイスを実施
	② 保育所・幼稚園の巡回訪問 ・幼児教育アドバイザーが園を訪問し、園庭遊びの工夫や小学校との連携方法等について、アドバイス・意見交換・研修等を実施 （174園訪問（全体の約4割強））	② 保幼小接続 ・園児と児童の交流活動を引き続き実施（10～11月、12回）するほか、モデル校同士による意見交換や実践事例のネット配信等を実施
<b>保育所・幼稚園と 小学校の接続</b>	① 保幼小接続（スタート・アプローチカリキュラム） ・モデル5校区で、公私立の保・幼・小が連携して、1年生の終期を目標にしたカリキュラム案を策定し、実践・検証（福井市麻生津小、敦賀市敦賀南小、大野市有終南小、鯖江市豊小、坂井市高椋小） ・保幼小合同研修会を開催し、モデル校の中間報告を実施（8月、392名参加） ・モデル校の小学校教諭が園で一日保育体験（7～8月、65名参加）	③ 家庭教育の支援 ・家庭教育支援ワークシートや活用マニュアルを作成し、保育士・幼稚園教諭や保護者等を対象とした講座を開催し、家庭教育支援を充実 ④ センター開設一周年記念事業の実施 ・一周年記念特別期間（11～12月）を設定し、特別講座（福井大学松木教授による小学校の教科書を学ぶ講座）等を開催 ・由紀さおりさんによる「童謡で伝える会」を、嶺南で初めて開催（12月） ・公私立の保・幼・小関係者が一堂に会する「幼児教育力向上会議」を開催し、今後の方向性等についての意見交換を実施
<b>家庭教育の支援</b>	① 出前家庭教育講座の開催 ・家庭教育アドバイザーが、園や市町の子育て支援センター、3歳児健診会場等に出向き、保護者を対象に、グッドトイや絵本を使って親子のふれあいを促進 （63回開催、約1,700名参加） ・保育士、幼稚園教諭を対象とした家庭教育支援講座を開催 （14回開催、約250名参加）	<b>今後の方向性（H26年度～）</b>
	② 親カステップアッププログラム ・保護者の育児に関する悩みや不安を解消する家庭教育支援ワークシート案を作成し、モニター講座で保護者との意見交換等を実施	○保育士・幼稚園教諭の教育力向上を引き続き推進するとともに、今後は、家庭の幼児教育力向上や子ども遊びの促進等を図っていく。
<b>豊かな感性を伸 ばす</b>	① グッドトイ・絵本の普及 ・出前講座等を活用し、子どもの遊ぶ力を引き出す木のおもちゃや本県出身の加古里子さんの絵本を園に普及し、子ども遊びや読み聞かせ等に活用	① 家庭教育力の向上 ・保護者の育児に関する悩みや不安を解消する講座を開催するほか、テキストを作成し、親のより良い子育てを支援
	② 童謡を通じた家族のふれあいの促進 ・由紀さおりさんを招いて「童謡で伝える会」を開催 （3回9公演開催、2,750名参加）	② 子ども遊びの促進 ・子ども同士の協同性や社会性を培う、ごっこ遊びや伝承遊びを園に普及